

(6) 奈良女子大学附属中等教育学校の取組

ア 本校の概要

本校は明治 44 (1911) 年にその前身となる奈良女子高等師範学校附属高等女学校として開校し、平成 16 (2004) 年、現在の校名となった。1 年生 (中 1) ~6 年生 (高 3) まだが同じ学び舎に集い、中高の枠を越えて部活動や学園祭などに勤しんでいる。

平成 17 (2005) 年、スーパーサイエンスハイスクール (SSH) に指定されて以来、今日に至るまで IV 期連続の指定を受けている。また、国際交流の事業としては、グローバルクラスルームに淵源を持ち、ユネスコスクールの理念の実現を目指した取り組みである AYF for SF (Asian Youth Forum for Sustainable Future) を中心に展開している。SSH に関わる国際交流も含めて、毎年数多くの生徒が国際交流の事業に参加している。

イ WWL 事業連携校としての取組

(1) Asian Youth Forum for Sustainable Future

アジアの連携校が持ち回りでホスト校をつとめ、参加校の生徒がその地を訪れるという形式のもの。時期は 7 月下旬、約 1 週間。国際的なテーマに関する協働的な探究学習をおこなう。2021 年度のテーマは "Tolerance in Society"、2020 年度のテーマは "How has COVID-19 impacted ___?" である。なお、2020 年度と 2021 年度はオンラインにより実施した。



(2) インターアクトクラブ

奈良大宮ロータリークラブをスポンサークラブとして、AYF の実務を担ったり、海外の連携校が本校を訪れる際の国際交流事業のホスティングを担ったりする生徒が在籍するクラブである。

(3) Sakura Science Camp

本校が主催校となってアジアの理数系先進校の生徒を招き、奈良女子大学の研究者による科学ワークショップに参加したり、高校生どうしで科学探究をおこなったりする。時期は 9 月上旬、約 1 週間。本事業は JST からの支援も受けている。

なお、2020 年度と 2021 年度はオンラインにより実施した。

ウ 今後の課題

ここ 2 年間で培ったオンラインのスキルや機材を活用し、国際交流を技術の面から高度化する。また、県内・国内の生徒とも積極的に連携し、プログラムの内容を高度化し、参加する生徒の資質・能力のさらなる向上を目指す。